

れんさい／問わず語り（最終回）

上方の二都

司馬 遼太郎

え・中 西 勝



たいていの新聞社がそうらしいが、神戸支局を経由した者は社会部畑をゆき、京都支局をへた者は、学芸部文化部におちつく。

そんな傾向があるようだ。

私などが新聞社にいたころもそうで、私は京都支局に六年も居すわされた。そのあとは、おさだまりの文化部であった。

関というほどでもないが、どの新聞社にも京都派、神戸派というのが、強いていえば存在するらしい。

京都派は、個人色がつよく、たがいに批判をしすぎ、仲がよろしくない、というのが傾向のようである。そのかわり、なにか、京都の町から自分なりに吸収したものを身につけて出てくる。

私なども、もし、青春のころ、数年の京都支局時代がなかったとしたならば、いま書いている小説も、ずいぶんちがったものになっていたろう。

だから、その時期をもったことに感謝しているし、京都の町に

（好みとしてはすきではなく、住む気にはとてもなれないが）感謝している。

神戸派の記者は、これとちがってひどく仲間どうしが仲良し小良しである。

——神戸支局にいた。

というだけで、一種同窓会的なふんいきでたすけあったり、相談にのりあったりして、つながっている。

どの新聞社もそうらしい。

これは、京都の町、神戸の町が、それぞれの記者に影響をあたえてこうなるのだろう。

神戸派は、がいて陽気である。新聞社でも、社会部にむいている。私の十四年間の新聞記者生活での見聞では、神戸派は一人のこらず腰のかるい働らき者で、京都派は、一人のこらず腰の重い小理屈屋であった。それぞれの生れ故郷がちがうくせに、この二つの町は、これほどの感化をあたえる。あたえるだけのふしぎな力が、町にあるのであろう。

俗な意味の出世という点からいえば（新聞社での）神戸派が断然出世するが、京都派は、学芸部記者で個性的な存在におちつく程度である。どちらが記者として人生として意味があるかは、これはここでは問わない。とにかく神戸派が活気のあることはたしかであるそして、たがいにチーム・ワークがとれている。「神戸という町はふしぎだな」

とそういうことから感じはじめたのは、新聞社での駐けだしのころからであった。

（どうしてそんなことになるのだろう）

と、考えた。

考えたが、その神戸を研究（？）する機会がなかった。

ところが、「神戸っ子」という雑誌ができて、編集をしている小泉康夫さんと五十嵐恭子さんがやってきて、

「神戸を見せてあげましょう」という。



それにつられて、ざっと一、二年、ひまさえあれば神戸に出かけた。一つの町を、「見物」という態度で、これほど根気よく見たのははじめてであった。おそらくこれからもなさそうな経験だろう。おかげで神戸の秘密がわかった、とまではいえないが、すくなくとも、日本に生存する各都市の「都市民族」のなかでは、「神戸民族」というのは、非常に優秀（むろんお世辞であるが、実感はこもっている）であると思うようになった。

京都人も神戸人も、他の都市人とちがうのは、自分のすんでいる町が日本で一番いいと思いきっている点である。

東京や大阪は、稼ぎ泥棒の集まりのような一面があり、名古屋や福岡は、中央に対する劣等意識がつよい。

が、京都人と神戸人はちがう。この町が一番いいと思っているし町を住みよくきれいにしようという、西洋流の都市感覚がもっとも発達している。

京都人は千年の都市文明をもっているから市民は、自分の町だと思っている。京都を歩いても、家の軒下にゴミバコなどは出していない。そういう不浄のものは町をきたなくするというので、屋内に収めている。これはたれから強制されたものでもなく、「都市は市民の共有財産だ」という感覚が、千年の伝統でちゃんともっているからである。

神戸は、日本の六大都市の中では、もっともあたらしい都会である。幕末に、英仏蘭伊などの公使が幕府に「兵庫開港」をせまり、すったもんだのあけく実現した。いわば、西洋人がつくった町である。

京都の大将である孝明天皇などは最後まで兵庫開港に反対しておられた。公卿どもも大反対であった。公卿どもを擁している薩長両派をはじめ尊攘浪士も極端に反対していた。

反対の理由は、当時の複雑な幕末史が背景になっているからこで数語で説明することはできないが、とにかく「神戸誕生」には京都派は大反対であったというのはおもしろい。

当時の英国公使のパークスは、仕事はできるがならず者のような

べらんめえ的性格があり、しかも短気者だったから、

「それほど兵庫開港に反対するなら、艦隊をもってくるぞ」

と、幕府をおどかしたくらいであった。幕府は、各国公使と京都派の板ばさみになってずいぶん苦勞した。

そんないきさつをへて開港し、わが神戸市は誕生した。

だから神戸は、当時の日本の二つの政府（将軍政府と天皇政府）が外人に力で犯されていやいやながら生んだ子で、とくに天皇方にとっては、生んだ、というよりも、他人の子をおしつけられたにひとしい。だから、神戸は、いわば外国人が生んだ町なのである。そういう伝統は、歴々として神戸という町の特異な性格をつくった。前号で、陳舜臣氏がいつているように、誕生のときからコスモポリタンの町なのである。こういう都市の成立は、日本ではほかに函館があるが、都市としての規模はくらべものにならない。

この町の「見学」で、私はいろいろなことを知った。

大阪人は安物買いが好きだが、神戸人は上質のものが好きである。大阪人はドクドクしいデザインのものが好きだが、神戸人は、しゃれた見あきない美しさのものが好きである。

大阪人は、値のやすい二流品でがまんするが（市立の学校を作っても）、神戸人は、それが一流でないのがまんできない。

そういうちがひがある。

そういう感覚が神戸の町を作っている。「神戸は摂津国の山ノ手で、大阪は摂津国の下町だ」と私は感じたが、神戸人は大阪的都市性格に対する強烈なアンチ・テーゼとしてこれからも伸びてゆく必要があるのではないか。

京都、神戸、大阪が、それぞれの個性を大いにのばしてゆくところに、これからの上方の繁栄は築かれるだろう。

ながいあいだ、連載した。

だんだん臆病になってきましたので（というより種切れになってきましたので）この辺で、退場いたします。

乾杯。

神戸の繁栄のために。

（作家）

花の季節に
花の帽子を



婦人帽子

マキシン

神戸・トアロード 東京銀座3-2

TEL (3) 6711-3 TEL (535) 5041

Feather

Newton



美しさを創る...

アスター・ニュートン

トア・ロード (3) 1818



S
P
R
I
N
G
TIES

ネクタイ

元町バザー

神保町元町 TEL 31401

* *For Ladies' Shop*

美しいお酒落に
シラサのバッグ



特 選
ハンドバック
専門の店

シラサ

元町2丁目・③0813

すてきなお嬢さん

こんにちはわ！

きく人・岡部伊都子（随筆家）

話す人・竹田峯子（美容師）

竹田峯子さんは、生れてから、あまり神戸を離れたことがないといはれるほどの「神戸っ子」先日も、一週間ほど東京の講習会にゆき、神戸の駅に帰ってきて、摩耶山、再度山の緑の山を見て、ほんとにほっとされたとか神戸の山の美しさと空気の綺麗さに疲れもとんでしまつて、神戸に感謝しなければとお思ひになられたということです。

竹田さんは数年前、兵庫支部美容コンクールで三等を獲得。その後も地味な美容院で仕事を愛し、張切つてお過します。

岡部 「竹田さん、いつごろから、今のお仕事をなさり始めたんですか」

竹田 「ちょうど、学校が六三制の切替えの時に中学を出まして、お父さんに奨められて入ったんです。最初いやだったんですが、お父さんが「人の出来ない仕事をやっていると安心だから」と云われて……10年程前になりました、16くらいときですね。最初、一年間ほどは悲しかった」

岡部 「そういう、学校があるんですか」

竹田 「私は学校にはいきません、すぐお店に入っただです。年頃ではいつて、西神戸のお店にお勤めしたんで

す。その頃は、歳もいっていないから、年があくのを毎日待っていたんですよ。なにしろ雑用ばかりするお手伝いさんでしょう。それでも、はたかを過ぎたら仕事に慾が出てきましたね。そして、三宮の真中の美容院に勤めたいと思ひだしまして……それが夢だったんです——思い通りに、三宮のお店で勤めることが出来て、しばらく居りましたけど、その頃が一番たのしかった。」

岡部 「どう云うことが楽しい訳、思うように自分の技術が進んで行くこと？それとも沢山の人の接客したり、お店の雰囲気を楽しむの？」

竹田 「職場の雰囲気が楽しいこともありませんが、自分の手が伸びて行くことですね、お店の人が沢山いて、最初カットする人も、ロット巻する人も競争ね——

最初は、お店に先輩もいらつしやるし、お店の流儀もありますし、仕事のお手伝いもなかなかさせてもらえないんですよ。競争ですから積極的にロット巻をさせてもらえるように、カットしはる人の横に立って待っているんです。競争心が働きのなかにあるんですから、楽しく仕事が出来ましたね。お客さまも阪急沿線のセンスのいい方が多くてね」

岡部 「まあ、大体何年ぐらいで一応、何でも云われた

ように、自分の思った通り出来るようになるんですか」

竹田 「二、三年でも一応格好は出来ますよ、だけど矢張り、出来て、自信もあるようにできるまでには、五、六年はかかりますね」

岡部 「竹田さんは10年選手ですからベテランですね」

(笑)

竹田 「なかなか、そんなには……」

岡部 「随分、地味な職業であるようで、また、華手な職業なんです」

竹田 「なかには華手な人もいて、パツとした人がいるものですから、時どき誤解される場合があるんです」

岡部 「なんといっても、女の園でしょうし、男の方がいらっしやることはないでしょうね」

竹田 「お年寄りの方が一、二度いらっしやることもあります、お店の休日を選んで来たたくようにしています。だから、普段の日は男の方はいたしません」

岡部 「男の方でも、パーマントをあてたいと思っていられっしやる方もあるでしょうから、神戸みたいなオシャレの好きな町には、男性専門の小さな店を作ってもいいかも知れないですね」(笑)

竹田 「そうですね、でもいまは、理髪店で、アイパーとかいろんな方法でやっていらっしやる、電気ゴテなんかでね」

岡部 「あなたが修業なすっていらっしやって、ご両親から離れたときどう云うことを、一番情けなく思われたでしょうね」

竹田 「一番最初に困ったのは、今まで、ご近所の方でも、おばさん、おばさんという言葉を使っていたんですが、お店に入ると翌日から「奥様」というんですね……

この言葉が早速に出てなくて、それに何だか手のひらを返えしたように思えて「おくさま、どうぞ」という言葉が全然出ないんです。この時は悲しかった。然しこれも、段々慣れてしまいました……。そのお店では、玄人のお客さまもいらっしやって、きざみゴテをあてる

んですが、コテをあてる前にすき櫛ですいて、フケを落すんですよ、このとき、一度、すき櫛を「キヤツ」と頭にあてて、そのお客さまに、きつく怒られましたよ、もう顔は真赤になるし、飛んで裏に入って——ほんとにかわった」

岡部 「技術を身につけられるときにね、仲々コツののみこめない方もいらっしやるでしょうね」

竹田 「私もどうしても出来ないとき……出来る人の腕をチギッてほしい」と思いましたもの……技術を身につけるときは、一難去ってまた、一難、ジャンプのこと一つでも、なかなか憶えられなくてね……」

仕事で大切なチーム・ワークノオシャベリは禁物

岡部 「私は時どきにし、美容院に行った憶えがないんですが、東京などで、かえって暇が出来たりして、入って見るんです。資生堂に入って「予約がないとだめ」と云われて飛んで出たりして……」(笑)

やって下さる方にいろんな人がありますね。初めてで顔馴染でないのがいけないのかも知れませんが、なかには、初めての人という気楽さで、もうお友達とばかり話をしている人があるんです。人の耳のそばをつかまえて、不愉快ですね、熟練した手先で「くるくる」されるんでしょうが、そんな人にやってもらうと「何か、心がこもっていない」という感じがするんですね——自分の仕事に対する真剣な気持という点で根本的に欠けるものがあると思うんです。

第一義の仕事がこんなようでは、人間関係の一大事とか、社会に対する考え方というものにもどう向っていらっしやるのかというような不安、不信がおこって来ますね」

竹田 「仕事の間で友達同志が無駄話をするとはいけませんね、「タブー」になっているんです。仕事に身が入りませんものね、友人間のチーム・ワークはなくて



(写真は左・岡部伊都子さん右・竹田峯子さん)

はいけないんですけれどもね。私のお店では、ラジオの軽い音楽番組とか楽しい番組を流していて、お客さまのお話には受け答えはするんですけども……」

岡部 「私が、いつも気の毒に思うのはお正月前ね、」

竹田 「でもね、お正月前があるから初めて下の方の人の手があがるんです、いままで、やらしてもらえない仕事を、この時にさせてもらってるんですよ」

岡部 「なる程ね、そうして見ると大変大事なお勉強の時だということになりますね」

竹田 「あの時は、お客さまも、一応早くしてほしい、早く出来ればいいと思っていらっしやいますし、こんなときには、技術を憶える手が上るので、苦しいとは思いません、一番大切な勉強のときなんです」

岡部 「お休みの日はどんなになさっているんですか」

竹田 「お休みのときはお洗濯や、お買物に出たりで一日過ごんですが、街に出ると人の髪の色を見て、勉強させてもらいます。近頃はお客さまも、随分勉強されていますので、絶えず勉強しなければ……特にテレビでご覧になった髪の色が注文によく出ますね」

岡部 「やはり普段の勉強が大切な訳なのね、髪の色などの研究は難かしいでしょうね、流行もあるでしょうし外人のお客さまはありますの……」

竹田 「日本のお客さまも『有難とう』とかいろいろ労われるんですが、外人の女の方は、ジェスチャーたつぷりに賞めてくださるので、やっていて楽しいですね。それに髪の色も、案外、自分にあったスタイルを変えられませんか、流行とかそんな型でなくて、ほんとに自分にあった髪の色を大切にされます。これは見習ってほしいと思いますね、パーティーなどがある場合はまた、別に考えられていますし、ハツキリしてますよ」

岡部 「それは、自分の髪なんですから、どう変えられるといういい訳ですが、個性的なものがある方がいいですね、あんまり次々と髪の色を変えらるというのも落付かないでしょうね……」

美容コンクールにどんなおでこになったら」

竹田 「ええ、そうしたいとは思いますがなかなかお稽古するのにお店に氣を使いますから」

岡部 「これからも、たくさんの方が、美容のお仕事をしたいとあこがれていらっしやるでしょうが、何か、言っておきたいことはありますか」

竹田 「さあ……。よほどのお氣持をもたれないと、とてもつづかないのではないのでしょうか。私は小学校二年生のときに指を傷つけましてね。父が卒倒したくらいでした。でも、やはりこの仕事をやってきて、なにか自分の悲しみを克服したような氣がします。ずいぶん苦しんだこともありましたが、どの道をゆかれるにしても同じように努力が大切なのではないですか」

岡部 「とても、そんな苦勞をなさったようには見えませんよ。あかるくて可愛い感じであらう」(笑)

神戸っ子座談会

ゲストに岡崎 忠氏を迎えて

東京売りの 神戸買い！



神戸はいつまでも雌伏してはいけないよ！と、岡崎忠氏

▼出席者

岡崎 忠

神戸銀行頭取
経済同友会代表幹事
兵庫県公安委員

牛 尾 吉 朗

ウシオ工業KK社長
神戸青年会議所理事

角 南 猛 夫

角南商事KK社長
神戸青年会議所副理事長

永 田 良 一 郎

永田良介商店社長
神戸青年会議所副理事長

神戸には物凄い潜在力がある

牛尾 この座談会では、神戸の経済界を代表する人であり、また、公安委員会などで市民がいろいろお世話にもなり、文化人の一人としても「神戸っ子」には馴染の深い、岡崎頭取（神戸銀行）からいろいろご意見をお伺いしようということなんです。まづ、「神戸論」というところから――

岡崎 私は、芝で生れて芝で育った江戸っ子なんです。だから「神戸っ子」の資格はあまりないんだな（笑）。だがね、神戸の岡崎家に来たのが昭和4年なんだ。それに岡崎家、祖先伝来の墓地は春日野にあるんだ、だからゴールは決ってるんだ――（笑）

そういう意味でもね、私は単怯なことは出来ない、縁あって神戸っ子になったんだからね——

最初、神戸に来た頃はね、東京がよくてね、神戸が嫌でしょうがなかった、というのは「風土・人情が違おうでしょう？言葉でもサ、何んだか女性的でしょ、今でも嫌な言葉が『えげつない』『しんどい』『嫌らしい』なんかね弱ったもんですよ。ところが、最近はどう東京に行くのが嫌になったよ。あの交通地獄、スモッグ、この頃は勝手なうただけど、神戸礼讃だよ美しい山、海、食べものはうまいしね。ゴルフ場は空いてるしね」

(笑)

この頃ではね、会社の支店長なんか東京から神戸にいらつしやると「いいところにこれましたね」と云うんだ「そうだ」といつてるよ。神戸から東京に転動される人には「お気の毒ですね」と云うんだ。そうするとね「そうだ」なんだ(笑)

角南 もう全く神戸っ子になられた訳ですな。

岡崎 それに、学生時代の東京と違って、あまりにひどいと思うナ何か慾望が渦巻いているようだよ国会、政治家を中心にしてね。

角南 神戸っ子は環境に恵まれ過ぎていてですね、いささか物足りない。進取の気象に欠けているのではないかと いわれるんですが。

岡崎 ガメツさはないね。
角南 先日、神鋼浅田会長の話ですが「神戸には松方あり、解散はしましたが鈴木商店ありで、神戸を中心にして、相当な意志表示をし得たものだがいまはそれがない」といわれたんですが、確かに

そこに何か地盤の沈下というか、環境の良さから来る、マンネリズムがあるのではないかと思うんですが。

岡崎 それは、一面あなたの仰言のとおりですが、神戸には潜在勢力(ポテンシャル・パワー)が強大だと思ふ。現在、東京でジャカジャカ云うのが偉いとは思わない大阪をはじめ神戸、京都とも、戦後あまりにも立直りに急を要したその為には国家資金を使い、利用しなければならなかったから、中心を東京にもって行かれちゃったんで、地勢・立地条件あらゆる意味で、神戸の潜在勢力は物凄いものだと思ふ。東京も大阪も物理的に行きつまってしまふ、神戸は現在雌伏しているんだ。だが、いつまでも雌伏してはいけないうと思ふ。皆さん方が立派になられて「この野郎」と立直って欲しいんですよ——今のうちに準備しておいてね。私たちが東京で「帝国ホテル」に泊るでしょう。そこから大手銀行に行くのに30分もかかるんだ。「ありやア乳母車のスピードだ」と云うんだ。乗物が乳母車と自動車と違うだけ、赤ちゃんの替りに、白髪頭か禿頭か乗っているだけ、スピードは一緒(爆笑)

神戸だと須磨からこの本社まで20分ですよ——もっと早く行きますよ。それで風光明媚な須磨に帰れるんですよ。いい訳ですよ。

北九州も雌伏していますが、今後、中国、東南アジアが開けて行くところも買いですよ——この間も座談会で私は「神戸の株は買いです」といったんだ。東京売りの神戸買いですよ。
東京には国家権力の中心があるだ

けですよ。これも民主主義が徹底すれば——大阪に貿易庁が、神戸に運輸省があるという時代が来るでしょう。神戸は必ず盛り返しますよ。造船・海運・鉄鋼にしてもアジアをまかなうようになると思ふな、若いあなた方がしっかりやってもいいナ。あなたの方が甘かったら「これは駄目ですよ」

世界は狭くなった、

角南 話は変わりますが、頭取が最近海外をお廻りになって、特に印象に残ったことと云えばどんなことでしょうか？世界こぼれ話というところですね

岡崎 去年の8月、9月とアメリカの西の方に行つて、一昨年はアメリカから欧州に行つていますが最近、海外にでて驚ろくのは「うんと日本人が行っているナ」ということです。カメラを2ツ程ぶら下げて「キョッキョッキョ」靴を鳴らして歩いてるのは日本人だナ「世界は狭くなった」そう感じますね。昔、東京に行つた時間があれば、アメリカに行けるし、少し延ばせば地球の裏側に行っちゃうんですよ。今から18時間もジェット機にのれば海水浴が出来ますよそれと、目立って日本の商品が進出していることです。電機製品、カメラを始め豊富に出廻っていますよ。しかし、色、スタイルなどの点で、いまだ少しの研究があればもう最高でしょう——黙っていても売れるようになると思ふんですが。

角南 これは、日本銀行の広瀬さんのいわれたことですが「日本の景気調整を金融手段とおして調

整できた」ということについて、海外では日本の経済力を非常に高く評価しているということなんです。

岡崎 私は今まで、51・53・56 58・61・62年と海外に行っていますが、ずっと前58年頃からすでに、日本とドイツは恐るべき国だと云っていましたよ。

しかし、我々が考えている以上に過度の評価をしているように思う。しかし、戦後、ゼロから立直った日本に脅威はもっている。池田首相が外遊したときの待遇をくらんに比べればお判りだと思えますが、確かにそれは見られませんが、だが、自惚れてはいけないというのはドイツの前進は勿論、イタリが非常に繁栄しています。戦前のイタリとは見違えるようになっていますよ。

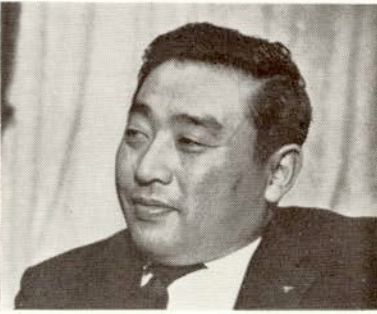
牛尾 EEC諸国を日本が恐れている以上に、EEC諸国は日本の進出を恐れているという話をききますが、その点はどうですか——岡崎 そのとおりですよ。EEC諸国にしてもアメリカにしても、最終的な狙いは、7億の民をもつ中国であり、朝鮮、インド東南アジアなど未開発国家なんでしょう。そうすると日本は距離的にも近いし、毛色も似ているし、日本の経済が伸びていることも事実だし日本が有利な立場なんですから当然、マークされるでしょう。神戸の経済界の場合でも、海運、鉄鋼、造船など、斜陽だというのが冗談いってもらっては困る。石炭なんかと同列に考えてもらいたくない。日本の基礎産業なんですからただ経理面が悪いだけなんです。原料高で製品安か、人件費



角南 猛夫氏



牛尾 吉朗氏



永田 良一郎氏

が高いのか、売れないのか——経理面を圧迫している理由はいろいろあるが、その原因を解決して行けばいいんですよ。

海運の場合でも、どう金融の合理化をすればいいのかが検討すればいいんです。日本の海運をやめてしまいう訳には絶対いかなないですよ。神戸には基礎産業の経理面をどうすれば解決できるかということを実際に考え取組めばいいんですよ。

昨日も、寺畑総務部長が県の開発公社の理事になられていらつしゃったとき「兵庫県は播州にも充分ゆとりがあるんだから、大阪、阪神間と違って未来がある。神戸も立遅れているようだが、伸びる楽しみがあるんだから、お互いにしつかりしよう」という事を申し上げたんです。県でも市でも、なんといっても、財政が豊かでない駄目ですね。経済力が出来れば、自然、財政も、行政も豊かになるんですよ。富むと云うことは大切なことです。県が市が富むということです。私は国家でもそうだと思う、富国ということですね。アメリカがなぜ立派にやっけて行けるか、西ドイツがなぜ立派になつてきたかというのは富んでいるからです。

「世界の神戸」になるために

「公德心」をもっと育てよう

牛尾 話は変わりますが、頭取が世界の各都市をおまわりになって、神戸市と比較されてどうお感じですか、町づくりということで……岡崎 世界の一等国家の都市、ロンドン・パリ・ボンなどと比較し

て遅れています。一番残念なのは公德心に欠けていることだ。道路・下水道のように物質的なことよりも、公德心というところが遅れている。アメリカの都市なんか非常に衛生的で、公德を実によく守っています。日本の都市はこの点、悲しいけど駄目だな。

―乗物では婦人子供をいたわらない人が順気よく並んでいる列を若い人が平気で横から割りこんで先に乗っちゃう。席は学生達が占領している―もう、恥かしいな。それに唾を吐く、立小便は平気だろ(笑)。日本人は非常に勤勉だし教育も普及しているし、いいところが一ぱいある国民なんですよ。その中の一部分の人、アウト・ローが乱すんだ。いづれにしても学校で教えない公德をだネ(笑)。徹底的にP・Rするんだ。結局ね、銘銘が不幸なんだ。知らないままに年をとっていくのではね。

永田 学校教育だけでなく、家庭での躾という問題でしょうネ。

岡崎 結局、P・Rをうんとするんだ。それに地味だけど市民の個人個人が公德心を育てるように責任をもつて努力することだね。神戸は100万市民の非常にモデレートな都市なんです。まづ、神戸から公德心を育てていき文化都市にしましょう。そんなことナンヤクというのはこちらで蔑んでやればいい、可哀そうな奴だ。なアとね。またね。こんなことが守れないんならね「獣面獣心」だな。動物園だよ(笑)。文化都市何にか云わんやだ。

牛尾 確かに公德心という面での対策は難かしいでしょうネ。原口市長も「対策がない、どうしたらいいか教えてもらいたい」とおっしゃっていましたね。

岡崎 それは、原口市長としては弱い考えですネ。あらゆる機会に「唾や立小便」はいけないと話し

て、P・Rをしていただきたいものです。神戸市長なんですからお互いにね、ここね、私は現在の青少年を責めるのはやめてほしいと思います。青少年の今日あらしめたのは大人の責任なんです。からね、他を批判する前に自己を批判すべきだと思うんだ。だから近頃の青少年は悪いと云うことは出来ません。

神戸を明るくする

推進団体をつくる。

角南 神戸で欲しいものは、ドライブしても快適な道路、夜走っても、サイドランプだけで走れる道路というものがあっていいんじゃないかと思えますネ。

岡崎 外国の大都市では、ヘッド・ライトをつけてはいけないところがあるんです。ヘッド・ライトつけたら罰金なんだからね。

永田 確かに大都市でヘッド・ライトをつけねばならないのが間違いでしょ。牛尾さんが話されていたように、せめてバンコック並の施設はほしいと思いますよ。

牛尾 3年前にバンコックに行き

昨年10月に行き驚いたんですが水銀灯がはいって明るい道路になっているんです。シンガポールもそうです。低開発国家という都市がそれなんですからね。

永田 近くでは、西宮市は第二阪神国道に全部水銀灯がつけましたし、芦屋市も計画を決定して、つけつつあるんです。

牛尾 神戸製鋼のところから神戸新聞会館までの設備資金は集まっているんですが、あとのキーピングが問題なんです。これを市がもた

ない訳ですよ。電力はあるが電力料が馬鹿にならないんです。これで全部、行きづまっています。永田 それが殆どですネ。水銀灯の取替え、電力料で一灯につき3万円の経費がかかる訳で歳費の出どころがないと市は言うんです。岡崎 結局、財源というものを考えればいいんじゃないの？

永田 一番肝心なことなんです。もう一つ、設備は民間で寄附しようとするのだから、管理は市で受

持っていと思うんですが――岡崎 市の行政というものは、ペイするかしらないかということではなくて、市民に幸福をもたらすことが狙いなんです。からね、メインストリート

を明るくするということが市民の関心が深ければ、別途に財源を求めても方法を講じたのもですね。―ましてバンコックなどタイの都市で行われていることだとすれば反省させられるネ。これは放談だけれども一つの結論に達しましたね。我々、公安委員と

しても、東からきた自動車をスムーズに西に送り出す。このことは、東神戸にはいって脇浜あたりから須磨までは、ノーヘッド・ライトでやる。いいいやあない、パリッ

としているよ、これを理想にしてやりたいな。一つこれを機会に団

体を作って推進しましょうか。経済団体も市、県も公安委員会もこれに入って、実現を目指してやるうじやアありませんか。町が明るくなれば、事故も少なくなる、防

犯にもなる、美観にもいい、神戸っ子の皆さんと力を合せてやりましょうか。

牛尾・角南・永田 是非、実現させたいですね。

綱 領

われわれ Jacec は社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうするもの相集い力を合せ青年としての英知と勇氣と情熱をもつて明るい豊かな社会を築き上げよう

青年会議所は世界を結ぶ若い団体です
神戸青年会議所は設立以来五年目の春を迎えました。新しい神戸を担って立つ青年経済人相集い高邁な綱領を理想として、腕を組み、互いに磨き前進を続けています。

神戸青年会議所は、ことしから新しい経済団体として「近畿は一つ」というマスタープランのもとに神戸の限りなき前進の力となるよう、「修練と奉仕」の活動を展開しています。





神戸青年会議所

総務委員会
会員委員会
広報委員会
経済活動委員会
修練委員会
社会活動委員会
親睦委員会
涉外委員会
国際関係委員会
定款委員会





私の好きなスター

関西の味・園佳也子さん

貝 原 六 一

《画家・行動美術会員》

あなたの好きな女優さんとは、聞かれるたびに、えーと、何んて名前だったかなと、そのくるくるとよく廻るあいにくの小さいな目を、一ぱいに見ひらいた、まるく可愛らしい顔を思い出すのですが、どう言う訳か生れつきひとの名前の覚えられない癖のある私にはその女優さんの名前が、まがりなりにも口に出て来るまでには時間もかかるし随分と苦労します。その苦労しても言いたい女優さんの名前は園佳也子と言います。

私は、園佳也子さんにはブラウン管の上でこちらが勝手にお目にかかっているだけなので、それ以外の園佳也子さんについては何一つ知りません。

こうして園佳也子さんを書く以上は何か予備知識を思っただけで

スポーツの前田三光君に早速連絡しましたが本人不在のためこちらだけが勝手にお目にかかっているブラウン管上の映像としての園佳也子さんのことしか書けない始末になりました。

園佳也子さんの名まえと云うより私の場合その演技からくる人間性が印象に残ったのは大分まえのことになります。友人の山田赤麿君が書いたテレビ番組の伴淳のトラックの運転手ものに園佳也子さんが出ていた時だと記憶しています。園佳也子さんを私がブラウン管で見たのもその時が初めてだったと思います。家出娘なんかのちょっと出の女中役のようでした。がその勘のよいお芝居に舌を巻きました。と同時にこんなに関西の味の強烈に匂う女優さんも少くない

と思いました。

それから私の見て来た園佳也子さんは役柄にもよりますが黄色い声や軽妙なアドリブやそして生れつきよい、お芝居の勘を武器としてどんどん芸域を拡げて来たように思います。

勿論それだけでなく人一倍勉強されたこと、思います。

私は、園佳也子さんのお芝居を見ながらいつも浪花千栄子さんや森光子さんを思い出して園佳也子さんの黙っていても強く匂って来る素直な関西人らしい庶民的体質をいつまでも大切にしたいと思っています。

(写真／園佳也子さん)



デコレーションケーキ

御引菓子

御土産

和菓子・洋菓子

創業 明治三十年



風月堂

神戸元町三 ③ 695・696

O-SHIBATA 柴田音吉洋服店

神戸・元町通4丁目 神戸4-0693

大阪・高麗橋2丁目 大阪231-2106



華麗なる

ウエディング・ドレス

福 富 芳 美



「ウエディング・ドレス」は、その人の人生でたった一度の非常に厳粛な、そして華やかな装いです。

しかも華やかさだけでなく、清純な「花嫁」Vという感じを表現する装いですから、そのデザインはモダンというより格調ある——クラシックな感じのものが好ましいといえましょう。

「華やかさ」Vにこだわって胸やウデを出した、つまりハダを出すようなデザインはウエディング・ドレスの場合はおかしいから気をつけましょう。袖が短か目なときは、手袋でおぎなひ、できれば袖口までピッタリくるのが常識です。

生地には華麗さを……

色はもちろん白。そして生地にも華やかさと共に華麗な感じ——たとえば模様刺しゅうをしたり、うちかけといった日本の花嫁衣裳と同じような感じをだしたものです。サテンに刺しゅうをしたもの、凝ったレース（ブレードを合わせたものなど）、このほか刺しゅうやレース加工をした白生地などを選びましょう。

ドレスの丈は、トレーンをひくような長いものが、現

代的にだんだん短かくされつつあるようです。といってあまり短かいものだと普通のドレスとかわらずに「莊嚴」Vさに欠けますから、やはり丈は長い方がいいでしょう。

ヘッド・ドレスのはなし

ヘッド・ドレス——これは日本の「角かくし」にかわるものでウエディング・ドレスの場合は、帽子のかわりに「チュール」をつけます。チュールの丈もスソをひくように長かったのですが、いまは短かく軽い感じのものが多くなっています。

昔は、このヘッド・ドレスにとっても凝ったものですが、いまではカンムリ式やアクセサリ的なものにと形が変わってきています。いずれにしてもチュールはウエディング・ドレスにはなくてはならないもの。日本でも帽子屋さんでいいものができるようになりましたから、ドレスにあったチュールを作られることです。ただしあまり変ったものや、そればかりが豪華であってはおかしい感じを与えますから注意しましょう。

色直しのカクテル・ドレス

「色直し」は、日本独特の風習のように思えますが、色直しのカクテル・ドレスは、あまり濃い色でつくらず清楚なブルーやピンクなどのうすい色のもので品のいいデザインを選んでください。もちろん、ふりそでや訪問着をお召しになって色直しをなさるのもいいでしょう。

一般にカソリックの多いヨーロッパではシンプルなものの、アメリカでは逆にひろがった感じのウエディング・ドレスが多いようですが、日本の場合、和服の華やかさを考えますと、やはりいくらかひろがった感じの華やかなものの方がいいでしょう。

ともかく、ウエディング・ドレスは、作くられるときも、借りられるときにも、その人の身分と式に応じたデザインを選ぶということがいっばん大切な心得Vと申せましょう。

（神戸ドレス・メーカー女学院長・大丸神戸店顧問デザイナー）談



紳士服飾・婦人服飾

セリザワ

紳士服飾/大丸前 3-3900
 婦人服飾/大丸前 3-1695
 婦人服飾/三宮センター街 3-6114
 婦人服飾/姫路やまとやしき 23-1221

SUGIYA ハンカチと下着の店
 トア・ロード TEL ③3436



花の negligé

¥2,900